

## 【うきは市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台の端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

目指す学びの姿：自分で決めて、自分で解決する主体的な学びができる子ども

目指す教師の姿：子どもの主体的な学びに"伴走する"教師

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」等の内容並びにこれらを引き継ぐ政府の論議を踏まえ、「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出すためには、学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠なものである。

うきは市においては、平成26年度から積極的に学校のICT教育に取り組み、平成28年度に2校のICT推進校を指定して、1クラスが1人1台端末で学習できるように環境整備を行った。また、平成30年度までに、全小中学校に教師1人1台、全児童・生徒の3人に1台のタブレットを整備完了した。

令和元年度からGIGAスクール構想にのっとり令和3年度末までに児童・生徒1人1台タブレット、高速通信ネットワークの整備を整え、令和3年度より「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取り組んでいる。

#### 2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想が示されてから、令和2年度末に児童・生徒、教師用の1人1台の端末の導入と高速通信ネットワーク整備及び大型提示装置への接続整備を完了した。これらのハード面の整備と合わせて、ソフト面においても、端末利活用をサポートするため、令和3年度から2名のICT支援員を配置し、授業でのICT利活用の支援を推進した。

また、教職員のICT活用能力向上を目的に、毎年度、全教職員を対象にICT機器の技術研修を実施。さらに、教育委員会と校長代表、教頭代表及び各学校の教務担当をメンバーとしたICT教育推進会議を年3回開き、進捗状況、課題等について協議を行った。併せて、ICT端末に入れるアプリについての会議を教育委員会、校長代表、教頭代表、各学校の推進委員、ICT支援員で年2回程度実施した。

GIGAスクールにおける管理については、市独自ドメインを取得し、Google Workspace、office365のアカウントを市内統一で管理できるようにすると共に、学校間、教員間のデータのやり取りやスケジュール管理ができる環境を整えた。

その結果、どの学校においても積極的にICT機器を利活用した授業が展開された。

今後は、さらにICT機器の利活用を推進し、子ども一人一人が自分で決め、解決に向かって主体的に学んでいく姿を求め、一層努力していきたい。

### 3. 1人1台の端末の利活用方策

GIGAスクール構想のより1人1台の端末の整備が完了し、活用から4年目を迎えており、どの学校においても日常的にICT機器の活用が行われている。

今後は、NextGIGAに向けた整備計画に基づき、令和7年度末までにICT機器の更新を行い、令和8年度から「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の実現」に向けて取り組んでいく。そのために、以下のように利活用を行っていく。

#### (1) 1人1台の端末の積極的活用

ICT端末を活用した授業はほぼ毎日実施されており、児童・生徒の学習の道具として定着している。ただ、家庭学習としての持ち帰りについては、セキュリティ的な面とリテラシー的な面から部分的にしか実施できていない状況がある。

今後は、家庭学習においても活用できるようセキュリティの強化を図ると共に、ICTリテラシー教育にも積極的に取り組み、更なる端末の利活用に取り組んでいく。

#### (2) 学びの保障

海外から転入してくる日本語指導の必要な児童・生徒や適応指導教室等に通う児童・生徒、障がいのある児童・生徒や病気療養児の実態等に応じて端末を活用した支援を実施する。

また、希望する不登校児童・生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供する等、様々な困難を抱える児童・生徒への支援策として、多様な場面で1人1台端末を活用していく。

#### (3) 個別最適・協働的な学びの充実

児童・生徒一人一人が自分の特性や理解度、進度にあった端末の使い方(調べ方、まとめ方、発表・表現方法等)を自分で選択し、決定し学習を進める「個別最適な学び」に積極的に取り組んでいく。

また、自分と同じ考えや異なる多様な考えを端末の共有機能で交流したり、他の児童・生徒の取り組みを見ることでヒントにしたりして、自分の考えをさらに深め、興味を持った友達と意見交換をする「協働的な学び」にも積極的に取り組んでいく。

さらに、端末を効果的に活用することにより児童・生徒が一単位時間に『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』が実現できるように取り組んでいく。